

このページは読み上げ機能に一部対応していない場合があります。  
ご不明な点につきましては、直接学校までお問い合わせください。

## 令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

千葉県八千代市		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
八千代市立萱田小学校	八千代市教育委員会	公立

### 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
八千代市立萱田小学校	<a href="https://www.yachiyo.ed.jp/ekayada/gaiyo/hyouka/">https://www.yachiyo.ed.jp/ekayada/gaiyo/hyouka/</a>	

### 2. 特別の教育課程の内容

#### (1) 特別の教育課程の概要

①第1学年34時間、第2学年35時間の特別な教育課程「言語活動科」を編成した。

第1学年は、生活科から17時間、音楽科から17時間、「言語活動科」に充てる。

第2学年は、生活科から17時間、音楽科から18時間、「言語活動科」に充てる。

#### ②校務分掌

外国語活動・外国語主任を配置。ALTと事前に打ち合わせを行い、授業内容の検討を行う。授業ではT1が担任、T2がALTとして進めるようにした。

#### ③特色ある取り組み

毎週火曜日をイングリッシュデーとして、委員会の子が主体となり、お昼の放送を英語で進行したり英語の曲を流したりした。

#### (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

東葉高速鉄道の開発により、首都圏の住宅地として開発が推進されている地域の小学校である。児童が生きる社会を見据えた時、高いコミュニケーション能力や異文化理解能力が求められる。このような状況を踏まえると「外国語（英語）活動」を第1学年から実施し、コミュニケーション能力や異文化へ児童の興味・関心、能力を高めていくことが求められていると捉えている。そのことへの保護者の関心は高い。これまでのさまざまな学校行事や児童の安全指導などにおいて地域と連携してきたが、今後その連携を更に広げ、地域住民から外国語（英語）活動を支援するボランティアを募っていく等、学校と家庭、地域が一体となって地域ぐるみで児童を育てる体制をより一層整えていく。

(3) 特例の適用開始日

平成25年4月1日

平成30年4月1日変更

令和3年4月1日変更

令和5年4月1日変更

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

<特記事項>

学校のホームページに授業の様子を掲載し、学年で行われている授業の雰囲気写真や文章で紹介するようにしている。また、学校グランドデザインに外国語教育の推進を位置づけ、学校評議員会や青少年育成連絡協議会、校外向け掲示板で地域の方々に学校での取り組みについて伝えるようにしている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

英語への抵抗が低くなってきているように感じる。休み時間にALTとすれ違う時にも自然と挨拶をしたり、一緒に活動したりする姿が見られる。

特別の教育課程の編成・実施により、「次代に生きる国際人」という本校の学校教育目標達成に向け、前進していると考えている。

## (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

教育基本法第2条に示された教育の目的の第5項「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」につながる教育活動が行われると考え実践を行っている。また、学校教育法第21条に示された普通教育の目標の第3項「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」につながる教育活動が行えると考えている。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

### ①課題

担任の先生により、必要以上に日本語に訳して伝えてしまうことがある。児童の実態に応じて訳してよい場合とそうではない場面について共通理解をする必要がある。

### ②今後の取組

- ・英語専科の先生、ALT と児童が昼休みに英語でゲームをできる場を設けていきたい。
- ・教職員が「英語」への抵抗をなくせるように英語専科とのコミュニケーションを多くとることのできるような活動を組み入れていきたい。
- ・担任、ALT と打合せの時間を確保して、進め方の確認を、毎時間行っていく。